1．科目名（単位数）	家族心理学特殊研究　（2 単位）	3．科目番号	PSMP8269
2．授業担当教員	石川　清子		
4．授業形態	講義・演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係			
7．講義概要	心理学は、まずなぜ人はそう行動するかという個人心理の研究から始まった。しかし、1980 年代に入り、精神医学、発達心理学、集団力学、社会福祉学、家族社会学、家庭教育学などが発展し、その成果を視野に入れた学際的な家族力動（家族内の複雑な関係の様相、家族を取り巻く社会的システムとの関係）から探求する分野が開かれてきた。ここでは、家族に関わる心理学の研究と臨床実践について探る。		
8．学習目標	家族心理学とその周辺領域に関する専門書、学術論文を読み、その研究の現状・課題並びにその実践の統合について検討し、各自の研究を定める。すなわち、 １）家族心理学のシステマテックなものの見方、考え方について理解し、 ２）と、同時に、その臨床実践活動を学ぶことを通して、 ３）各自の研究の方向を定めていくことを目標とする。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	与えられた課題の他、自ら探した国内外の学術論文の研究動向および臨床的問題点を理解する。また、各自の研究・臨床実践への方向性を検討し、ここで発表した概要をレポート(小論文)にまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本家族研究・家族療法学会「家族療法テキストブック」金剛出版、2017 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス、2008 学術論文や必要資料等はその都度指定するので、用意すること。 【参考書】 秋山邦久『臨床家族心理学：現代家族とコミュニケーション』福村出版、2009 Adler, Alfred. *Understanding Human Nature*.　Minnesota: Hazelden. 1998 Gadamer, Hans-Georg. *Truth and Method*.　Translation by Weinsheimer, J. & Marshall, D.G. New York:Crossroad. 1990 Heidegger, Martin. *Being And Time*. Translated by Macquarrie, J. & Robinson, E.　New York: Harper & Row, Publishers. 1962 平木典子『家族との心理臨床』垣内出版、1998 柏木惠子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待』ミネルヴァ書房、2006 Merleau-Ponty, M. *Phenomenology of Perception*. Translated by Colin Smith. London: Routledge, 1989 Monk, G., Winslade, J., Crocket, K. & Epston, D. 1997 (国重浩一・バーナード紫訳「ナラティブ・アプローチの理論から実践まで：希望を掘り当てる考古学」北王路書房、2008) Parkes, Graham. Ed. *Heidegger and Asian Thought*.　Honolulu: University of Hawaii Press. 1987 Spielberg, Herbert. *Phenomenology in Psychology and Psychiatry*. Evanston: Northwestern. 1972 White, M. & Epston, D. *Narrative Means to Therapeutic ends*. 1990　(小森康永訳「物語としての家族」金剛出版、1992) Wittgenstein, L. *Philosophical investigations*. Oxford, England: Blackwell. 1958 Wong, P.T.& Fry, P.S. *The Human Quest for Meaning : A Handbook of Psychological Research and Clinical Applications*.　Routledge.1998		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 家族心理学のシステマティックな考え方を理解したか、また家族療法へと結びつける力量をつけたか、更には、自分の研究テーマへと結びつけることができるか。 ○評定の方法 評価は講義の際のディスカッション並びに発表の質　30% レポート(院生としての基準に満たない論文は、再提出を求める)　40% 文献の熟読と理解　30%		
12. 受講生へのメッセージ	臨床心理学（家族心理学・家族療法を含む）のより高度な実践と研究能力を育もうとする博士課程後期の大学院生は、より広くて深い臨床心理学的知見と臨床実践能力（スーパーヴィジョンを含む）並びに研究能力の３本柱の確立が必要である。その学びのプロセスを通しながら、自らの研究領域の課題を発見し、専門家としての意欲・態度・言動を磨いていくこと。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	家族心理学・家族臨床心理学の歴史的展望

【学習の目標】家族とは何か、その理解の変遷を振り返り、現代の家族心理学の方向性を確認する。
【学習の内容】「家族」という集団への心理学的理解並びに社会学的理解について検討する。
【キーワード】家族心理学の誕生
【学習の課題】家族という当たり前で複雑な事象をとらえる学問的な研究の発展を確認する。

2．テーマ	家族心理学とシステム理論

【学習の目標】家族を理解する鍵概念を理解する。
【学習の内容】家族の理解ための鍵概念を確認し、家族を理解する理論的な方向性を検討する。
【キーワード】家族システム理論、形態維持と形態変化
【学習の課題】家族をとらえる学問的基盤を確認する。

3．テーマ	家族の発展という観点；独身期から結婚による家族の成立期の諸問題の理解

【学習の目標】家族ライフサイクル面からこの時期の重要性を理解する。
【学習の内容】原家族との関係と配偶者選択との関連性と新婚期の発達課題について学ぶ。
【キーワード】親密な人間関係の構築・交際期間の長期化・相互信頼感の確立
【学習の課題】夫婦関係や結婚生活に関する非合理的な思い込みについて議論する。

４．テ ー マ	家族の発展という観点；乳幼児から小学生を育てる家族の諸問題

【学習の目標】子育てに伴うストレスについて理解する。
【学習の内容】子どもの誕生に伴って直面する課題と夫婦関係の満足度の変化について学ぶ。
【キーワード】経済的ストレス・身体的ストレス・心理的ストレス・人間関係のストレス
【学習の課題】小学校のスクールカンセラーの家族支援の実際と望ましいあり方について考える。

５．テ ー マ	家族の発展という観点；青年期の子どもを育て老人期を抱える家族の諸問題

【学習の目標】青年期の子どもをみていく親達は同時に自分達の親の介護の時期にあたる。この難しい時期の諸問題を理解する。
【学習の内容】青年期と老人期の発達課題から、何が問題として生じやすいか考察する。
【キーワード】自我同一性の課題、中年期危機、夫婦関係の再構築、高齢者介護
【学習の課題】中年期夫婦が取り組むべき内容とその際に生じやすい危機ことについて議論する。

６．テ ー マ	家族の問題という観点　Ⅰ　夫婦関係

【学習の目標】夫婦としての絆づくりの重要性を理解する。
【学習の内容】夫婦が絆づくりの過程で経験する様々な危機をどの様に乗り越えていくのかを事例をもとに考察する。
【キーワード】カップルセラピー・晩婚化・離婚・中年期危機
【学習の課題】現代の結婚事情と離婚の動向について調べ、その対応の在り方を議論する。

７．テ ー マ	家族の問題という観点　Ⅱ　子育て問題

【学習の目標】親になることの意味とその現状について理解する。
【学習の内容】子育てを通して成長していく親の心理的・社会的・行動的変容を考察する。
【キーワード】親になる意識・子育て・心理的離乳・夫婦関係満足度
【学習の課題】離婚に至る経緯から子ども達に与える諸問題並びにそうならないための対策について議論する。

８．テ ー マ	家族の問題という観点　Ⅲ　親子関係

【学習の目標】フロイト以来、人格の基礎は家族関係からと言われているが、その真意について理解する。
【学習の内容】親子関係が与える影響について考察する。
【キーワード】シングル・マザー・ジェンダー・バイアス・ジェンダー・センシティブ
【学習の課題】ジェンダーのレンズとは何かを議論する。

９．テ ー マ	家族の問題という観点　Ⅳ　多世代関係

【学習の目標】家族の多世代にわたる関係性と家族メンバーに与える影響を理解する。
【学習の内容】家族のライフサイクルを検証しつつ、その円環的相互作用について考察する。
【キーワード】思春期と思秋期・心理的距離・中年期危機・過労死・多重役割葛藤
【学習の課題】家族が成長していく過程で迎える思春期と思秋期に対するサポートの在り方を議論する。

１０．テ ー マ	家族の問題　家族が経験するストレス問題

【学習の目標】妻にとっての夫、夫にとっての妻はどのように家族の中で存在するか、ストレスの視点より理解する。
【学習の内容】家族が経験するストレスの種類について考察する。
【キーワード】家庭内ケア役割期待・過労死・自殺・うつ病・権力闘争
【学習の課題】家庭内ケア役割期待を中核に、ワーク・ライフ・コンフリクトにうまく対処しワーク・ライフ・バランスを維持させるためには、どのような支援をしたらよいか議論する。

１１．テ ー マ	家族（関係）の病理　Ⅰ　家族間暴力―①

【学習の目標】家族が直面している社会的な問題とその病理を理解する。
【学習の内容】家族関係が作り出す攻撃性とその対処法について事例を通して考察する。
【キーワード】児童虐待・高齢者虐待・親族間殺人
【学習の課題】家族関係の病理の背景を考察し、その予防的な対応を考える。

１２．テ ー マ	家族（関係）の病理　Ⅱ　家族間暴力―②

【学習の目標】ＤＶ家族の背景を含めた諸問題とその子ども達への影響について理解する。
【学習の内容】ＤＶ被害者の心理的特徴と被害者間のコミュニケーションの悪循環を分析し、対応の在り方を考察する。
【キーワード】セクシャルハラスメント・コミュニケーション・パターン：アサーティブな関係
【学習の課題】ＤＶ関係の暴力についてその背景やきっかけを含めて考える。

１３．テ ー マ	家族（関係）の病理　Ⅲ　物質依存

【学習の目標】家族メンバーが抱えやすいストレスとその病理についてその背景を含めて理解する。
【学習の内容】家族関係の病理をコミュニケーション・パターンをもとに考察する。
【キーワード】アルコール依存・ギャンブル依存・薬物依存・買い物依存
【学習の課題】コミュニケーションの悪循環を解決するアプローチ並びに学習理論の立場から解決法を探る。

１４．テ ー マ	男性と家族

【学習の目標】男女協同社会における男性の家族内の役割について。
【学習の内容】家族の中での男性と男らしさをめぐる諸問題について理解する。
【キーワード】男性の子育て参加・男性の恐れと思い込み・男性のうつ病と自殺
【学習の課題】男は仕事、女は家庭から世の人々はどのように意識が変化してきているか、その背景も含めて考察する。

１５．テ ー マ	家族療法

【学習の目標】家族療法が誕生する経緯について理解する。
【学習の内容】個人療法や他の集団療法との違いを考察する。
【キーワード】多世代家族療法・構造的家族療法・ＭＲＩ家族療法・ミラノ派家族療法・ソリューション・フォーカスト・アプローチ・社会構成主義・ナラティブ・アプローチ
【学習の課題】家族療法が生まれた経緯から現代までの発展を顧みて、今後の動向に関して考える。